

令和3年度 学校評価報告書

園名	三田市立広野幼稚園
----	-----------

1 教育目標

『笑顔いっぱい広野っ子』
 ○心身ともに健康で明るく元気な子 ○よく考え、工夫して遊ぶ子
 ○自分の思いをのびのびと表現する子 ○やさしく思いやりのある子
 (長坂中学校区共通めざす子ども像)
 『心豊かに たくましく生きる子ども』

2 今年度の重点目標

『のびのびと活動し、共に育ち合う子を育成』
 ～心を動かし、意欲的に活動する姿を支える環境構成や援助の在り方を探る～

3 総合的な自己評価

今年度もコロナ禍による感染防止対策を徹底し、園生活や行事の在り方を考え進めてきた。制限がある中ではあったが、計画していた参観日を全て実施することができ、子ども達の様子を保護者に見ていただける機会が持てたことはよかった。また、老人クラブの方との交流活動が持てたことで、地域の方が子ども達のことを大切に見守ってくださっている気持ちに触れることができ、改めて地域の方とのつながりの大切さを感じた。

保護者アンケートからは、園の教育方針やそれにつながる取り組みについて、理解をいただいていることを、数字から読み取ることができたことは成果として捉える。

日々、教師間で気づいたことなどを情報交換することにより、様々な視点や考え方による子どもの捉えができ、より多面的に子どもの姿を読み取ることができた。

子どもの姿からは、遊びや生活の中で、いろいろなことに興味をもち、自ら環境にかかわり、友達を誘ったりしながら、互いに刺激を受け、共通のイメージや目的をもって遊ぶ姿が見られた。また、遊びや生活を進めていく中で、友達と考えを出し合い、思いを伝え合い、共通の目的に向かって試行錯誤を繰り返しながら、自分たちで決めたことを実現しようと、意欲的に取り組む姿も見られた。

今後も、保護者や地域の方々と連携し、子どもの育ちに明確なねらいをもって、保育の充実を図っていききたい。

4 総合的な学校関係者評価

今年度も、コロナ禍により様々に制限がある中でしたが、感染防止対策を徹底し、予定通り保育参観を実施できたことは、保護者にとって満足されたことと思います。また、保育内容や行事などを工夫し、子ども達が元気にのびのびと園生活を送れたことに感謝いたします。

アンケートの結果からも、保護者が園の教育方針を理解し、先生方を信頼して子どもを安心して預けておられることも分かり、嬉しく思います。

心が育っていく大切な時期に、子ども達がいろいろな人とかかわり、たくさんの刺激をうけて、意欲や好奇心をもって、いろいろな事に挑戦し、自ら考え行動できるような経験を積み重ねていくことが大切であることが、先生方の取り組みを通して、よく分かりました。その積み重ねが、自信をもって自分たちで生活を進めていこうとする力につながっていると感じました。

この2年間は、行事が学年分散による実施となったため、保護者の方に異学年の様子を見てもらえず、一年の成長を感じられる機会が減ってしまったことが少し残念に感じているので、来年度こそは全ての行事を全保護者が参加できることを願うとともに、今後も、一人一人の子どもとしっかりと向き合い、保護者とつながりを深めながら、子ども達がのびのびと活動し、共に育ち合えるような取り組みを進めていきたいと思います。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	
教育課程	○学びに向かう力を豊かに育む内容の充実 ・心を動かし、意欲的に活動する姿を支え、個々の学びに向かう力につながる環境や援助の工夫 ・安心して自己発揮できる居場所づくりや援助の工夫 ・共に育ち合える4歳児と5歳児の交流の工夫 ・幼児一人一人の育ちや課題を共通理解し、個々に応じた支援や環境の工夫	子どもの「おもしろそう」「やってみよう」という気持ちを大切に、その思いが実現できるような環境構成が必要であることに気づいた。そのためには、教師自身の柔軟な思考力、対応力が大切であることを学んだ。 教師間で子どもの姿について話し合うことにより多様な視点や考え方による子どもの捉えができ、様々な援助の在り方があることに気づいた。また、場面に応じてチーム保育をすることで、より多面的に子どもの姿を読み取ることができ、子どもの姿を支える援助に繋げていけることも分かった。 一人一人の課題や育ってほしい力を育むためには、その子の成長段階をしっかりと捉え、教師自身がそのことを意識しながら保育を組み立てていくことの大切さを共通認識し、課題に応じた支援や環境について検討し合うことができた。	教師間で課題や願いを共有しながら保育を組み立て、子どもの思いや姿を大切に支えていけるような環境構成や援助の在り方を探っていく。 子ども達の“やりたい”気持ちを大切に受けとめ、一人一人の発達段階に応じて、自ら遊びを創り出す姿を支えていく。同時に、一人一人の子どもの育ちの連続性を大切にしたい保育を目指していくために、教師の意図や願いを明確にし、教師自身がそのことを意識しながら保育を進めていく。	・子ども達が自ら考え、行動できるよう見守り、一人一人にきめ細やかな指導をされていることが分かりました。 ・子ども達の思いや気持ちを大切にしながら、先生方がかかわってくださり、嬉しく思っています。 ・4、5歳児がかかわる中で、子ども達がどのように成長しているか、保護者への発信を丁寧にしていくことで、子どもの育ちをより理解してもらえるのではないかと感じました。
	○しなやかな心や体を育む取り組みの工夫 ・「わくわく体操」を基盤とした体づくりの推進 ・芝生園庭や園内環境を活かした動きづくりの工夫	今年度もコロナ禍により、4.5歳児ペアを4グループに分け、分散による取り組みを行ってきた。5歳児が4歳児をリードしながら各部屋を移動することで、5歳児としての自覚が芽生え、4歳児も5歳児を頼りにし、憧れの気持ちをもって一緒に取り組むことができた。 子どもの様子を職員間で情報共有することで、多様な視点による子どもの姿や成長に気づくこともできた。	今年度は、全保護者の方にわくわく体操の様子を参観してもらう機会を持つことができたことはよかった。しかし、1学期の参観だったため、継続して取り組んできた子どもの成長を見ていただけなかったことが、来年度への課題である。 グループに分かれて実施したことで、子どもの成長を多様な視点で見ることができ、そのことを職員間で共有できたことはよかった。	・わくわく体操は、年長児が年少児を気にかけて、同じスピードに合わせて動きを合わせている姿があり、子どもの成長を感じることができました。
子育て支援	○親と子が触れ合い、互いに育ち合えるための場づくりの工夫 ・園庭開放等における園の保護者への支援の充実 ・“未就園児との交流”や“うさぎっこクラブ”等における未就園児とその保護者への支援の工夫	今年度もコロナ禍により、様々に制限のある中ではあったが、“未就園児交流”や“うさぎっこクラブ”を数回実施できたことで、就園前の親子が集える貴重な場となった。また、子ども同士、保護者同士が交流できたことはよかった。 園庭開放では、未就園児の参加者も多く、園庭の芝生でのびのびと子ども達が遊ぶことができたことはよかった。	来年度も状況をみながら、交流活動が実施できるよう内容を検討し、幼児と未就園児が育ち合えるような環境の工夫を考えていきたい。	・未就園児の子ども達が集える機会が数回持てたことで、園の様子を見て、知ってもらえたことはよかったと思えました。 ・次年度は、“うさぎっこクラブ”や“未就園児交流”で、子ども同士、保護者同士が交流されている様子を参観させていただきたいと思えます。
保護者・地域住民との連携	○園運営や園行事への保護者や地域住民の参画の促進 ・園の取り組みや、幼児の育ちの情報発信の工夫 ・地域の各種団体との交流、連携の推進	老人クラブの方との交流を、1回持つことができ、子ども達や老人クラブの方にとって、嬉しく楽しい時間となった。老人クラブの方達が、子ども達が元気に遊ぶ姿をととても優しい眼差しで見てくださり、子ども達を大切に見守ってくださっている温かさを感じた。 ぶっくりんさんによる絵本の読み聞かせ、絵本の貸し出しを行うことができ、子ども達が絵本に親しむよい機会となった。	地域の方との交流活動が実施できるための環境や、内容の工夫を行い、子ども達が様々な人とつながりやかかわりを深めていけるようにしていきたい。また、地域や保護者の方が園教育に関心をもつていただけるような情報発信を心がけていきたい。	・老人クラブの方が「子ども達から元気をもらった」と喜んでおられ、とても嬉しく感じました。“どもは地域の宝”です。来年度は一回でも多く、交流の機会があれば願います。 ・園通信を通して、子どもの様子や成長していく姿を感じることができ、嬉しく思います。今後も楽しみにしています。
保 幼 小 中連携	○保 幼 小 中 連 携 の 推 進 と 幼 小 の 円 滑 な 接 続 を め ざ し て の 取 り 組 み の 推 進 ・保 幼、保 幼 小、幼 小 な だ の 交 流 の 場 の 工 夫 ・保 幼 小 中 連 絡 会 を も と に、学 び の 連 続 性 を 意 識 し た 交 流 連 携 の 推 進	コロナ禍により子ども達同士の交流の機会を持つことが難しく、今年度も運動会の様子を見せてもらう機会のみとなった。 園児・児童の交流はできなかったが、教師間での連携を心がけ、幼小の接続については実施することができた。 長坂中学校区の連携では、教師間で話し合いを行い、生活習慣や家庭学習及び接続期を意識した相互理解に努めることができた。	幼小の接続では、育ちと学びをつなぐ視点をもった話し合いができたので、来年度もさらに連携を深め、教師間の相互理解を深めていきたい。 園児・児童数の多い中、感染対策を考えた交流を職員間で検討していくことが今後の課題である。	・コロナ禍により、交流ができなかったのは仕方ないですが、どのような交流が計画されていたのか、わからない保護者の方も多いのではないかと思います。次年度は、交流の機会が持てることを期待しています。